

食観光の目玉は 地元の伊勢えび



9月から、佐伯市と延岡市で始まる「東九州伊勢えび海道」に向け、7月7日、両市の観光協会や行政、参加店などの関係者約70人が蒲江の大分県マリンカルチャーセンターに集まり、調印式を行いました。

「東九州伊勢えび海道」は、両市の共通資源である伊勢えびを使った食観光で、今年で3年目です。



調印式の様子

当日は、両市の代表者が協定書に調印し、地元で捕れた伊勢えびを使用することなどを確認した後、両市長による大漁旗の交換などが行われました。

調印式の後、出席者は、参加店が持ち寄った自慢の一品料理に舌鼓を打ちながら、交流を深めました。

今年度の「東九州伊勢えび海道」は、9月から11月まで開催されます。期間中は、民宿などの参加店で、伊勢えびを使ったコース料理が食べられるほか、フォトコンテストや、8月からのスタンプラリーなどのイベントがあります。詳しくはお問い合わせください。

▽問い合わせ先：佐伯市観光案内所 ☎(0975)25113



これからの協力を誓い固い握手

県境を越え深まる交流、進むまちづくり



国道388号を中心とした、佐伯市と延岡市にまたがる日豊海岸沿いが、「蒲江・北浦大漁海道」として、「日本風景街道（シーニック・バイウエイ）」のモデルルートに選ばれました。

国土交通省が進める「日本風景街道」は、自然、歴史、文化、風景に触れながらドライブできるよう、地域住民や行政などが一体と



大漁旗たなびく日豊海岸

気軽に寄り道ができて、沿道からの眺望や、地元の皆さんとの交流が楽しめる…そんな道づくりが始まります。

なって進める、地域づくりや道づくりを支援するものです。今回は、全国から応募のあった72ルートがモデルルートに選ばれました。

「蒲江・北浦大漁海道」は、かまえブルーツーリズム研究会が中心となって、蒲江や延岡市北浦のまちづくりグループ、(社)ツーリズムおおいたとともに現地調査や懇談会を行い、活動計画をまとめました。

日豊海岸の特徴は、リアス式海岸の屈曲した美しい海岸線です。訪れた観光客がその眺めを楽しみながらゆっくりドライブできるよう、これから道路沿いの駐車場や標識を整備するとともに、地域資源の掘り起こしを進めていきます。

8月から蒲江で 地域通貨を発行



NPO法人蒲江の海が、大分県地域活性化チャレンジ支援事業を受け、8月から地域通貨「りんぽはん券」を発行します。「りんぽはん券」は、「蒲江の海」が斡旋する「支え合い事業」や、「ボランティア活動」などに参加し、サービスを提供した人に差し上げます。

「りんぽはん券」1枚で、30分の「支え合い事業」を利用できるほか、地元蒲江の加盟店で310円分の買い物をする事ができます。

詳しくはお問い合わせください。

●支え合い事業の一例

- ・草取り、掃除
- ・通院介助
- ・食事支援
- ・買い物代行
- ・ごみ捨て

《問い合わせ》NPO法人蒲江の海 ☎(0975)1677